

株式会社オプトラン

2023年12月期第3四半期決算説明会(機関投資家・アナリスト向け)QA サマリー

Q: スマートフォン分野において、下期に顧客の生産拠点分散化の受注期待があるとのことだったが、3Q 受注実績において、分散化に伴う受注が見受けられなかった。生産拠点分散化に伴う受注のタイミングはいつか？

A: サプライチェーンの変化による新たな受注については、ニーズ自体の変化はないが、市況の影響を受け、後ろ倒しになっている。受注材料としては引き続き不変。

Q: スマートフォン分野の回復兆しが見られるとのことだが、第4四半期でのタイミングで受注回復が見られるのか？

そういった点を踏まえ、第4四半期の受注イメージは？

A: 年を通じ、中華系含め需要は弱かったが、足元の受注でも具体的な動きが見られるため、回復の兆しと見ている。4Qを通じ、全体として楽観はしていないが、来年に入って以降、サプライチェーン変化によるニーズや硬質膜等高機能分野の受注材料がより具体化していくと考えている。

Q: 4Qに向けて受注残高が増えるのか減るのか考え方を教えてほしい。

A: 9月末受注残で280億円弱です。4Qは、決して楽観視できない市場環境と考えるが、受注材料としては十分あるので、これが4Qから2024年1Qに向けて上向いてくると思うので、それに伴って、受注残は増えてくると考えている。

Q: ナノリソティックス(株)のビジネスの状況はどうか？

A: 7月に立ち上げたAIメカテック株式会社との合弁会社については、共同開発を予定通り進めている。デモ機を客先に収めたりする動きを来年初めから行う。来年を通じて受注獲得を目指していく。再来年には売上実績を上げていくことを考えている。

Q: ALD装置受注が昨年と比べ、今年は受注が少ない。今後のアプリケーションないしどれぐらいのタイミングで受注するか？

A: 昨年のALD装置受注はカメラモジュール向けで受注を多く獲得したが、それが一巡した関係で、今年については、端境期にあり、次のアプリケーション・分野の受注獲得を目指している。監視カメラ向けの広角レンズニーズは強いと感じているとともに、半導体光学関係の光電融合分野含め、MEMSを含めたセンシング機能等の微細加工が必要なところにALD装置の特性が生かされていくことから、今後、伸びると思われる分野と考えており、来年、具体的に案件が出てくるであろう。

Q: 来年の半導体光学融合のどの分野の見込があるか？

A: これまで実績としてあるイメージセンサ、Mini LED, Micro LED 等が、中心になり、今後プラスアルファとして、光電融合分野でそれなりのボリュームの増加が期待できる。

以上